

防災ハンドブック



▶ 函館市浸水予測鳥瞰図

非常持出し品・チェックリスト

万一の際に備えて、家庭では次のようなものを準備し、定期的にチェックしておきましょう。

必需品

<input type="checkbox"/> 懐中電灯 	<input type="checkbox"/> 飲料水 3日分 (1日1人 3リットル 目安) 	<input type="checkbox"/> 非常食 3日分
<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ・予備電池 	<input type="checkbox"/> タオル・毛布 	<input type="checkbox"/> 衣類・下着類
<input type="checkbox"/> 救急セット 普段服用の薬 おくすり手帳 	<input type="checkbox"/> 貴重品 	<input type="checkbox"/> ロープ

必要に応じて準備しましょう

<input type="checkbox"/> ビニール袋・ティッシュ
<input type="checkbox"/> ろうそく・マッチ・ライター
<input type="checkbox"/> 粉ミルク・ほ乳びん・紙おむつ
<input type="checkbox"/> 使い捨て食器
<input type="checkbox"/> せっけん
<input type="checkbox"/> ドライシャンプー
<input type="checkbox"/> 軍手、くつ
<input type="checkbox"/> ヘルメット
<input type="checkbox"/> 携帯用ナイフ
<input type="checkbox"/> 入れ歯
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

地震災害

地震から身を守る最大のポイントは「日頃の備え」です。
怪我や火災などの二次災害を引き起こさないためにも、いざとい

地震への備え

地震は突然起こります。家族の安全と被害を最小限に食い止めるためにも日頃からの準備が必要です。家族で防災について話し合い、災害から身を守りましょう。

わが家の耐震診断



- ✓ 家の間取りから、水まわり、ガスの位置、電気のブレーカー、家具の位置をチェックする。
- ✓ 家屋の耐震診断は専門家に相談し、補強等を実施する。

ブロック塀の点検



- ✓ ひび割れや壊れているところはないか、特に通学路、避難路に面している所はしっかり補強する。

高い所に重い物を置かない



- ✓ 地震時の落下によるケガの原因になるので、家具の上にテレビなどの重い物を置かない。

家族で話し合い



- ✓ 家族の役割分担や集場所を決める。
- ※「わが家の防災メモ」(裏表紙)に書き込んでください。

わが家の地震対策チェック

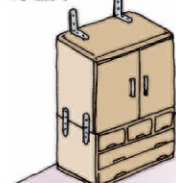
自宅の安全対策について点検し、対策が出来ていれば
✓にチェックを入れましょう。
不備な点がある場合は急いで対策を行いましょう。

- 家具は固定していますか。
- 照明器具はしっかり固定していますか。
- 冬期間、雪おろしをしていますか。屋根が重いと地震時に、建物に大きな負担がかかります。
- エアコンはしっかりと固定していますか。
- 棚、ダンスなどの上に、重い物を置いていませんか。
- 灯油タンクはしっかりと固定されていますか。
- ブロック塀は、ぐらついていませんか。鉄筋は入っていますか。
- 消火器を置いていますか。使い方を知っていますか。使用期限は過ぎていませんか。
- プロパンガスボンベは、しっかりと固定されていますか。配管はぐらついていませんか。
- ストープ、ガスレンジなどの、火元まわりに燃えやすいものを、置いていませんか。

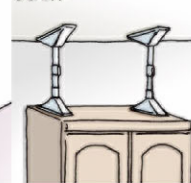
室内の安全対策

自宅の家具も地震時には凶器となり得ます。家具を固定し、安全対策に努めましょう。

L字金具

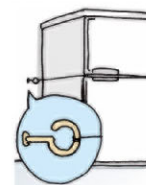


支え棒



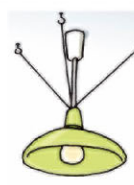
ダンス・本棚

L字金具で固定する。住宅事情により金具が取付けられない場合は、支え棒が便利です。



冷蔵庫

扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。



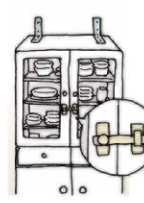
照明器具

落下防止のため、チェーンや金具で止める。



テレビ

できるだけ低い位置に転倒防止マットなどで固定して置く。



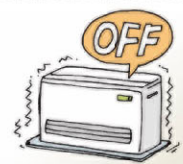
食器棚

金具などで固定し、滑り止めシートや止め金具、飛散防止フィルムを貼る。



ピアノ

ナイロンロープなどを巻きつけ固定。脚には、すべり止めをつける。



暖房機器

耐震自動消火装置付きのものを。周囲に燃えやすい物を置かない。

う時の対処方法を確認しておきましょう。



地震が起きたら…

パニック状態になった時、とっさの判断は難しいものです。次の事を参考に避難を心がけてください。

1 まず、身を守る



机の下などにもぐり、身を守りましょう。

2 かならず火の始末



コンロなどの火を消す。火が出ても落ち着いて初期消火。

3 出口を確保



家が傾いてドアが開かなくならないように、すばやく窓や扉を開けましょう。

4 わが家の安全確認



火災、家屋倒壊の危険やガス爆発など、二次災害の兆候はないか確認しましょう。

急いで避難所へ!!

避難は徒歩で、持ち物は少なく!!

わが家の防災メモを確認しましょう!

- ▶ 動きやすい服、ヘルメット、底の厚い靴。
- ▶ 家族への連絡メモを残す。
- ▶ ガスの元栓を締め、電気ブレーカーを切る。
- ▶ 火の元の確認と消火。



危険なら…

安全なら…

5 情報確認

近所の人と声をかけ合って安全を確かめ、ラジオなどから情報を集めましょう。



外出中の場合には…

自動車運転中は…



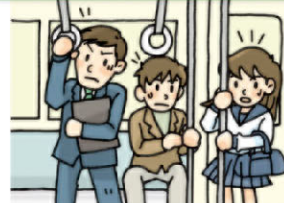
- ハザードランプを点灯し、周りの車に注意をうながす。
- 急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とす。

屋内外では…



- 屋内施設にいる場合は係員の指示に従う。
- 屋外にいる場合は持ち物や両手で頭を守り、公園や広い場所に避難する。

鉄道・バスでは…



- つり革、手すりにしっかりつかまる。
- 勝手に車外に飛び出さない。
- 乗務員の指示に従う。

エレベーターでは…



- 最寄りの階に停止させ、すぐに降りる。
- 万一閉じ込められたら、エレベーターの中の状態をインターホンで通報する。

震度と揺れなどの状況



震度 0

人は揺れを感じない。



震度 1

屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。



震度 2

電灯などがわずかに揺れる。



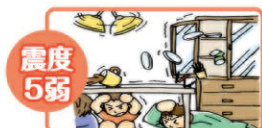
震度 3

棚の食器類が、音を立てることもある。



震度 4

電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。



震度 5弱

棚にある食器類や本が落ちることがある。



震度 5強

棚にある食器類や本で落ちるものが増える。



震度 6弱

固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。



震度 6強

はわないと動くことができない。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。



震度 7

耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。

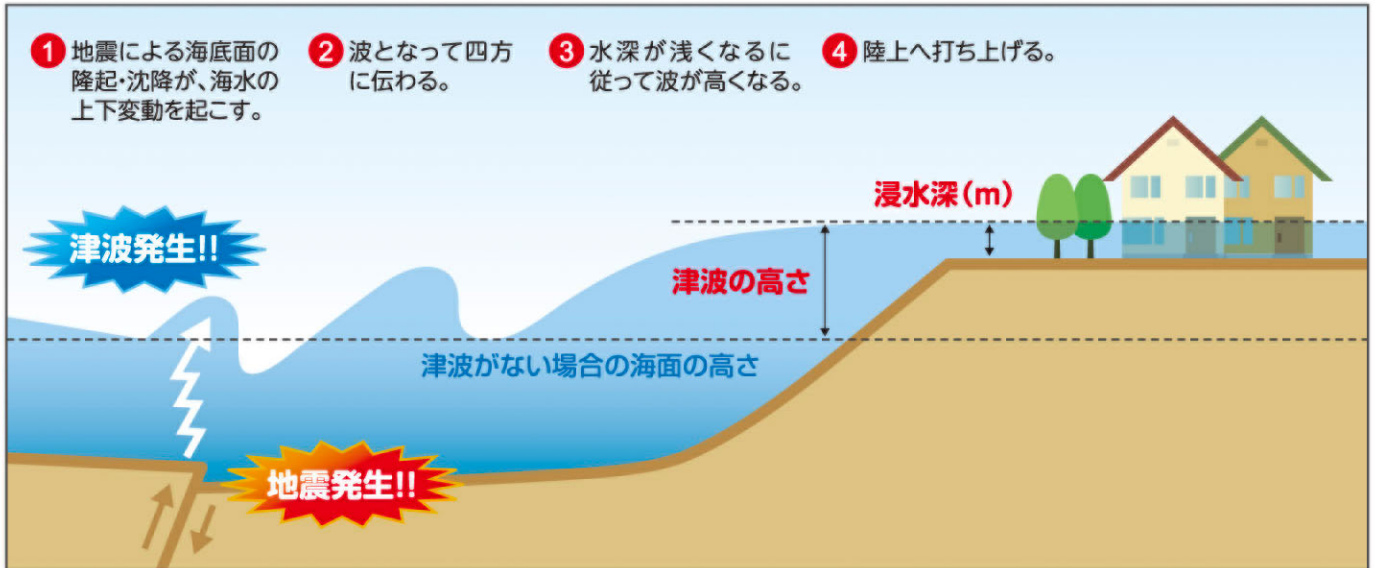
津波災害

津波から身を守る最大のポイントは「すばやく避難」です。
警報・注意報が発表されたらテレビ・ラジオなどで正しい情報
入手し、大きな被害が出る前にすばやく避難しましょう。

津波についての予備知識

津波のしくみ

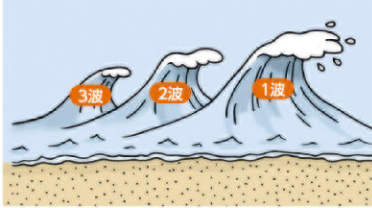
海底で発生した地震に伴う海底の隆起・沈降、地すべりなどが原因で、海水が陸地に押し寄せる現象を「津波」といいます。



●「津波の高さ」とは、津波がない場合の海面からの高さです。

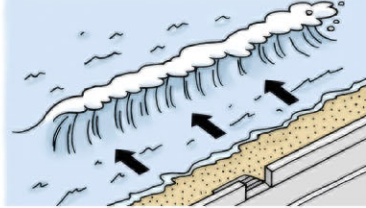
津波の注意点

津波は繰り返し来る!



津波は2波、3波と繰り返し襲ってきます。警報が解除されるまでは避難していきましょう。

引き潮がなくても注意!



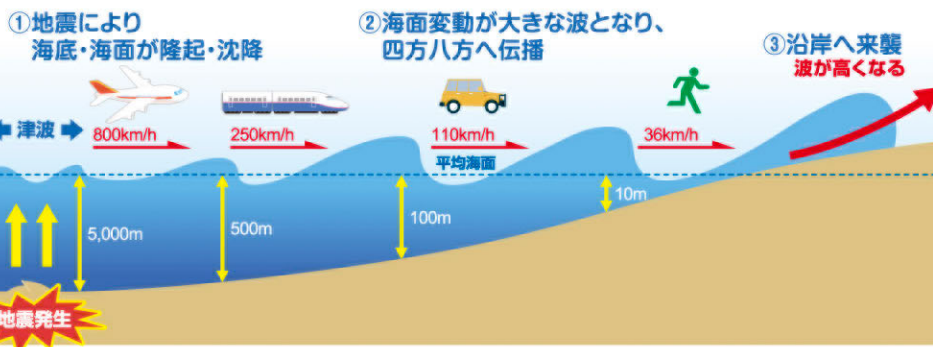
津波の前に必ず引き潮があるとは限りません。地震の起こり方や地形によっては引き潮が起こらない場合もあります。

津波の高さに注意!



海岸の地形などによって予想された津波の高さを超える津波が発生する場合があります。

津波発生のしくみ



津波は、海が深いほど速く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。逆に、海が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ後から来る波が前の津波に追いつき波高が高くなります。津波から命を守るためには、津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めたのでは間に合いません。海岸付近で地震の揺れを感じたら、または、津波警報が発表されたら、実際に津波が見えなくても、速やかに避難しましょう。

津波発生時の避難行動について

- ・津波ハザードマップにより、浸水が予測される区域を把握しておきましょう。
- ・津波警報・大津波警報発表時は、浸水が予測される区域外に一刻も早く避難しましょう。
- ・浸水が予測される区域外に避難した後、必要に応じて津波避難所に向かきましょう。
- ・浸水が予測される区域の避難者で避難する距離が長い方や避難開始が遅れた方は、指定されている津波避難ビルや一時避難適地、その他の高い場所に避難しましょう。

▶津波避難所

避難対象地域外に設ける避難施設です。(警報が解除された後、自宅に戻れない方の避難生活にも対応します。)

▶津波避難ビル

避難対象地域内に設ける施設です。3階以上の共用スペースに一時的に退避できます。(警報が解除された後、自宅に戻れない方については、津波避難所に移動していただきます。)

▶一時避難適地

一時的に津波から退避するため、避難対象地域外に設ける高台や道路です。

●津波・避難情報の分類

種類	予想される津波の高さ		市が発表する 避難勧告・避難指示
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現	
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	避難指示
	10m (5m<高さ≤10m)		
	5m (3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	避難勧告・避難指示
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	—	—

⚠津波警報などに注意!!

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報が発表されます。その後、予想される津波の高さ、津波の到達予想時刻などの情報が発表されます。警報の発表後、津波観測に関する情報も発表されます。

◎函館市の津波予報区は



津波警報が出たら...

▶津波から身を守るために

避難施設や高い場所へ避難する



指定された避難施設が近くにならない場合は、高い場所へ避難しましょう。

注意報・警報が出たら



注意報が出たら海岸から早く離れましょう。警報が出たら急いで避難し警報が解除されるまで戻らないようにしましょう。

徒歩で避難する。



車での避難は、緊急時において渋滞が生じ、避難の妨げになるので、徒歩で避難しましょう。

正しい情報を聞く



ラジオ・テレビ・防災行政無線などで、正しい情報を聞きましよう。

風水害・土砂災害①

河川に接する低い土地や地盤がゆる次の点に注意し、風水害に備えましょ

風水害に備える

！天気予報や気象情報に注意

台風や豪雨はある程度、襲来の時期や規模などを予測できます。普段から気象情報に十分注意して、風や雨に対する対策を立てることが大切です。



！家の内外を点検整備

トタンのめくれや、アンテナが不安定になっていると竜巻や台風時の被害の元になります。



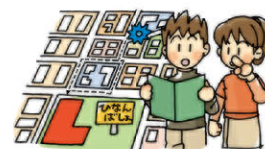
！避難場所を確認する

避難所マップに示されたあなたの近くの避難場所を確認しておきましょう。



！安全な避難順路の確認

避難場所までの実際の道順を確認しましょう。目印になるものを、おぼえておくとう便利です。



風雨による危険度のチェックポイント

▶ 1時間雨量による雨と被害の目安

やや強い雨
(10~20mm)



ザーザーと降る雨。地面いちめんに水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。

強い雨
(20~30mm)



どしゃ降り。側溝や下水があふれ、小川のはん濫、崖崩れの心配もあります。

激しい雨
(30~50mm)



バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。

非常に激しい雨
(50~80mm)



滝のように降り、地下に雨水が流れ込む場合や土石流も発生しやすくなっています。

猛烈な雨
(80mm以上)



息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。



集中豪雨 に注意!!

集中豪雨とは短時間に集中して狭い地域に多量の雨が降る事で「ゲリラ豪雨」とも言われています。台風などと異なり予測が困難であり、突発的に多量の雨が降ることから河川のはん濫や土砂災害などの被害が起きやすいので、気象情報に十分注意しましょう。

い土地は、水害による危険性が高い場所です。
う。



▶ 風と被害の目安

※表に示した風速は、10分間の平均風速です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍から3倍以上になることがあります。

平均風速	やや強い風 (10~15m/s)	強い風 (15~20m/s)	非常に強い風 (20~25m/s)	非常に強い風 (25~30m/s)	猛烈な風 (30m/s以上)
およその時速	~50km/h	~70km/h	~90km/h	~110km/h	110km/h~
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もでる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。	立ってられない。屋外での行動は危険。	
屋外	樹木全体が揺れる。電線が鳴る。	小枝が折れる。		樹木が根こそぎ倒れはじめる。	
車に乗っていて	10m/秒で道路の吹流しの角度が水平となる。高速道路で乗用車が横風に流される感覚を受ける。	高速道路では、横風に流される感覚が大きくなり、通常で速度で運転するのが困難となる。	車の運転を続けるのは危険な状態となる。		
建造物の被害	取り付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。	ビニールハウスが壊れ始める。	鋼製シャッターが壊れ始める。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	ブロック塀が壊れ、取り付けの不完全な屋外外装材がはがれ、飛び始める。	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。

竜巻に注意

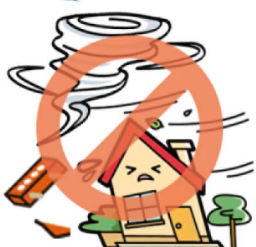
▶ 竜巻について

積乱雲に伴い発生する「竜巻」は発生時間が短く非常に局所的な現象で予測が難しく、建物の倒壊、車の転覆、樹木の破損などの被害があります。

竜巻による災害

- 建物の倒壊
- 屋根瓦が飛散
- 飛来物の衝突
- 電柱・植木の倒壊
- テント等の飛散
- 列車や自動車の転覆

1 頑丈な建物の中へ避難する。



- 避難するときは屋根や看板などの飛来物に注意しましょう。
- 避難できない場合は、物陰やくぼみに身をふせましょう。
- × 車庫・物置・プレハブ(仮設建築物)への避難は危険です。

2 屋内でも、窓や壁から離れる



- 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動しましょう。
- 窓、雨戸を閉め、カーテンを引きましょう。
- 頑丈な机の下に入り、頭と首を守りましょう。

風水害・土砂災害②

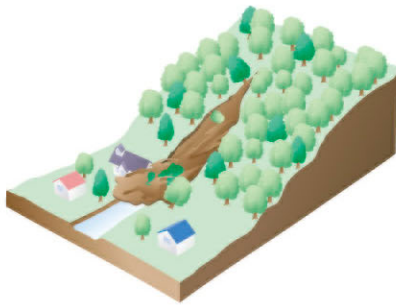
避難するときは、がけ崩れや地すべり足元に注意して避難しましょう。

土砂災害に備える

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増えて地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いたときに発生するとされています。土砂災害の要因となる降雨について、常日頃から注意しておく必要があります。

土石流

山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象。



がけ崩れ

雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。



地すべり

雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。

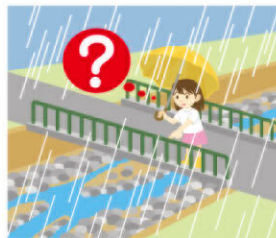


こんな前ぶれ現象に注意!!

次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、関係機関へ通報してください。



山鳴りがする



雨が降り続けているのに川の水位が下がる



地面にひび割れができる



川の流れが濁り流木が混ざりはじめる



小石がバラバラ落ちてくる



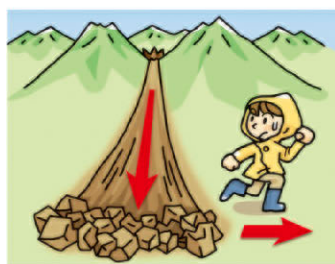
斜面から水がふき出す

▶ 雨に注意しましょう



土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

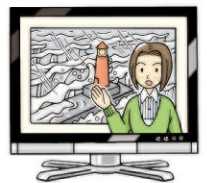
▶ 逃げ方を覚えましょう



土石流は速度が速いため、流れを背にしていたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようにしましょう。

⚠ 台風 に注意!!

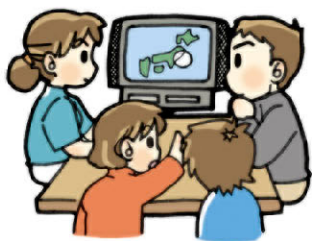
台風とは、熱帯地方の海上にできる低気圧のうち、低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおよそ17m/s以上のものをいいます。台風が近づくと、気象台から台風の強さと大きさ、現在位置、予想進路、中心付近の風速などが発表されますので、情報をよく聞き、風水害・土砂災害に備えましょう。





風水害・土砂災害が起きたら…

1 最新情報を入手



ラジオ・テレビで最新の気象・災害情報に注意し、危険を感じたら避難準備をしましょう。

2 呼びかけに注意



市および防災関係機関からの避難の呼びかけに注意しましょう。

3 避難場所を確認



避難する前に、ガス、電気、火種を消し、避難場所を確認。万一途中で家族が離ればなれになったときの集合場所を決めておきましょう。

4 2人以上で避難



できるだけ1人の避難は避けましょう。また、子供からは目を離さないようにしましょう。

5 助け合って避難を



子供や高齢者、病気の人などは避難に時間がかかるので、早めに避難させましょう。また、近所の人の場合も積極的に協力しましょう。

6 安全な避難



浸水があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、がけ地などでは、土砂災害の恐れがあるので注意しましょう。

7 交通渋滞を防ぐ



車での避難はやめましょう。緊急車両の通行の妨げや交通渋滞を招き、浸水すると動けなくなるおそれがあります。特別な事情がない限り、避難は徒歩で行いましょう。

8 避難に遅れたら…



水害時、万一、避難に遅れ危険が迫ったときには、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。

⚠️ 浸水時の歩行に注意!!

浸水した場合、水の流れがなくても歩ける深さの目安は、ひざ下(約30cm)くらいまでです。水の深さが腰まであったり、浅くても水の流れが速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。



裸足や長靴は避け、ひもで締められる運動靴を履きましょう!

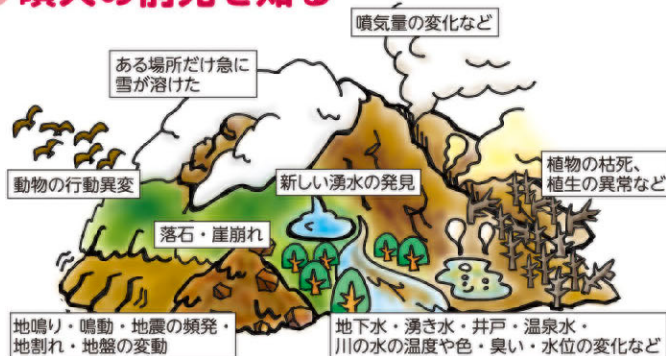
火山災害

火山災害の種類を知り、噴石が降ってきたら丈夫な建物や物かけ火砕流が発生したら流路から遠ざかる方向に避難するなど、防災

噴火警戒レベルについて

噴火警戒レベルとは、火山活動の状況を噴火時などの危険な範囲や必要な防災対応を踏まえて、レベル1から5の5段階に区分したものです。各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者などのとるべき防災行動が一目でわかるキーワード(レベル1は(平常)、レベル2は(火口周辺規制)、レベル3は(入山規制)、レベル4は(避難準備)、レベル5は(避難))を設定しています。対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報などで伝えられます。

噴火の前兆を知る



噴火警戒レベルが運用されている火山【駒ヶ岳】

警報・予報	対象範囲を付した警報の呼び方	対象範囲	レベル (キーワード)	火山活動の状況
噴火警報	噴火警報 (居住地域) 略称 噴火警報	居住地域及びそれより火口側	レベル 5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態と予想される。
		火口から居住地域近くまでの広い範囲の火口周辺	レベル 4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性が高まってきていると予想される。
	噴火警報 (火口周辺) 略称 火口周辺警報	火口から少し離れた所までの火口周辺	レベル 3 (入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
噴火予報	-	火口内等	レベル 2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
噴火予報	-	火口内等	レベル 1 (平常)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内での火山灰の噴出などが見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。

*噴火警戒レベルごとの「警戒が必要な範囲」は各火山の火山防災協議会での共同検討を通じてあらかじめ設定。

噴火警戒レベルが運用されていない火山【恵山】

警報・予報	対象範囲を付した警報の呼び方	対象範囲	警戒事項等 (キーワード)	火山活動の状況
噴火警報	噴火警報 (居住地域*) 略称 噴火警報	居住地域*及びそれより火口側	居住地域*及びそれより火口側の範囲における嚴重な警戒 居住地域*嚴重警戒	居住地域又は山麓に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
		火口から居住地域*近くまでの広い範囲の火口周辺	火口から居住地域*近くまでの広い範囲の火口周辺における警戒 入山危険	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
	噴火警報 (火口周辺) 略称 火口周辺警報	火口から少し離れた所までの火口周辺	火口から少し離れた所までの火口周辺における警戒 火口周辺危険	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。
噴火予報	-	火口内等	平常	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内での火山灰の噴出などが見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。

*「居住地域」が不明確な場合は「山麓」と記載。

に身を寄せたり、
対応をとることが重要です。



火山災害とは

火山による噴火は、火山噴出物が高温であったり、高速で流れ広がったりするために災害をもたらすことがあります。しかもマグマ（地下に存在する岩石が融けたもの）の性質が多様なため、噴火の起こり方や噴出物の種類も多様であり、それに伴う災害も多様です。函館市に影響のある活火山は「北海道駒ヶ岳」と「恵山」があり、起こりうる可能性の高い災害について知っておくことが重要です。

▶ 火山災害の主な種類

降 灰

噴火により火山灰や軽石が積もります。火山灰は、火口から放出される細粒の噴出物で、直径2mm以下のもので、噴火時の上空の風向きにより降下域は異なります。軽石は、火口から放出される多孔質の噴出物です。

火山泥流

土砂・岩塊などが、水と混ざりあって、高速で谷を流れ下る現象です。谷の出口でははん濫を起こします。一般には大雨の時に発生しますが、火山噴火で火山灰が積もったときには、多少の雨でも発生します。

！ 降灰を吸い込まないよう

に注意!!

火山灰が積もると、息苦しくなり、気管系に異常を発生します。このような装備で避難しましょう。また、がけや川のそばはなるべく避けてあわてず避難しましょう。



噴 石

噴火の爆発により直径数cm以上、時には1m以上の大きな石が降ります。

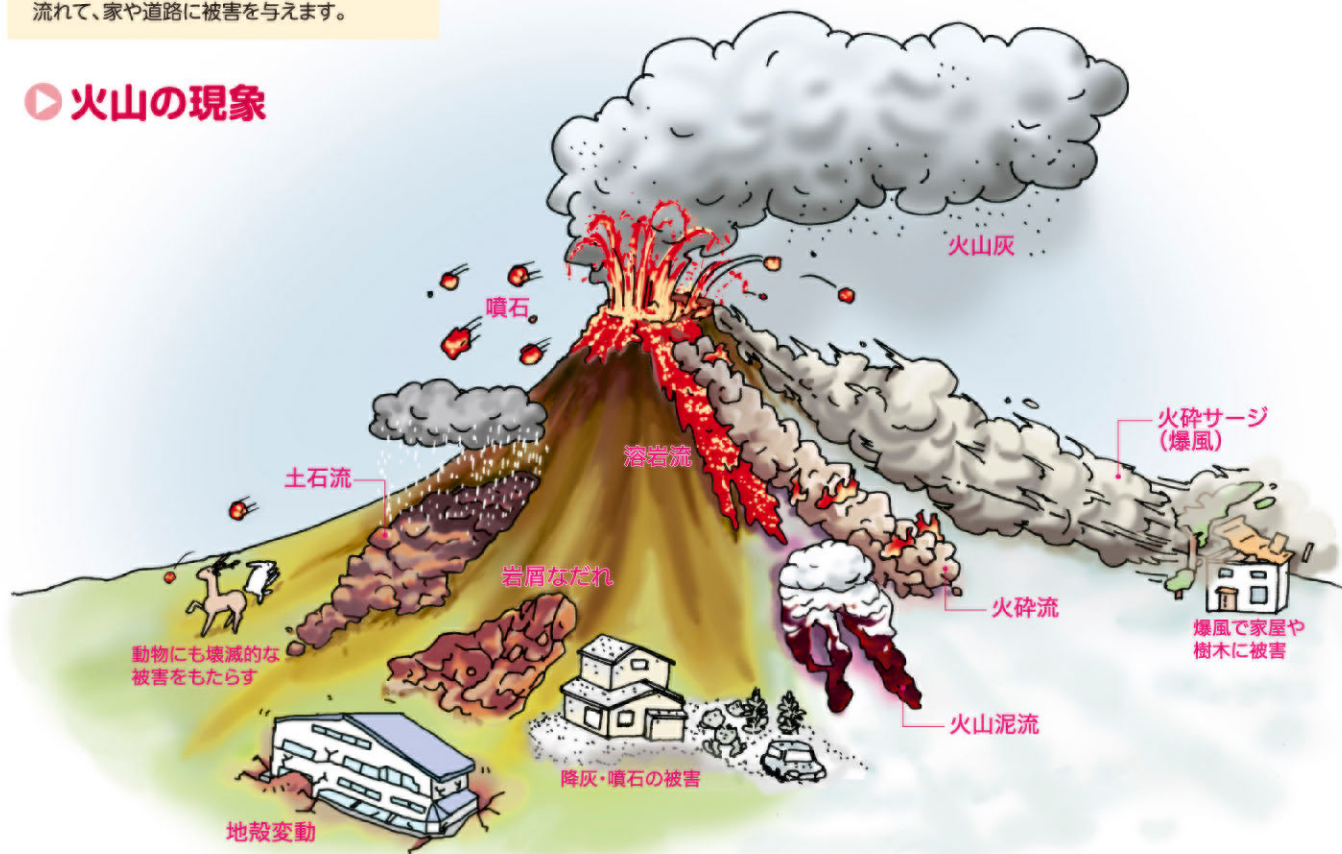
火砕流・火砕サージ(爆風)

火砕流は、火山から噴出された高温の火山灰・軽石・岩片・火山ガスなどが、斜面を急速に流下する現象です。温度は数百℃に達し、軽石流あるいは熱雲と呼ぶことがあります。火砕サージは、火砕流本体から分かれた軽石・岩片が少なく、高速で高温の砂嵐のような現象です。

溶岩流

地下に存在する岩石が融けたもの(マグマ)が、地表に現れたものを溶岩と呼び、それが流れて、家や道路に被害を与えます。

▶ 火山の現象



災害への備え ①

いざという時、災害の被害を最小限に抑えるためには、地域みなさんが協力し合い、一致団結して自主的な防災活動を行うことが大切です。

自主防災組織について

▶ 町会などで自主防災組織をつくりましょう

台風や集中豪雨などの異常気象に伴う災害の場合は、避難勧告・指示による避難や住民が自主的に避難することにより安全を確保することが可能です。

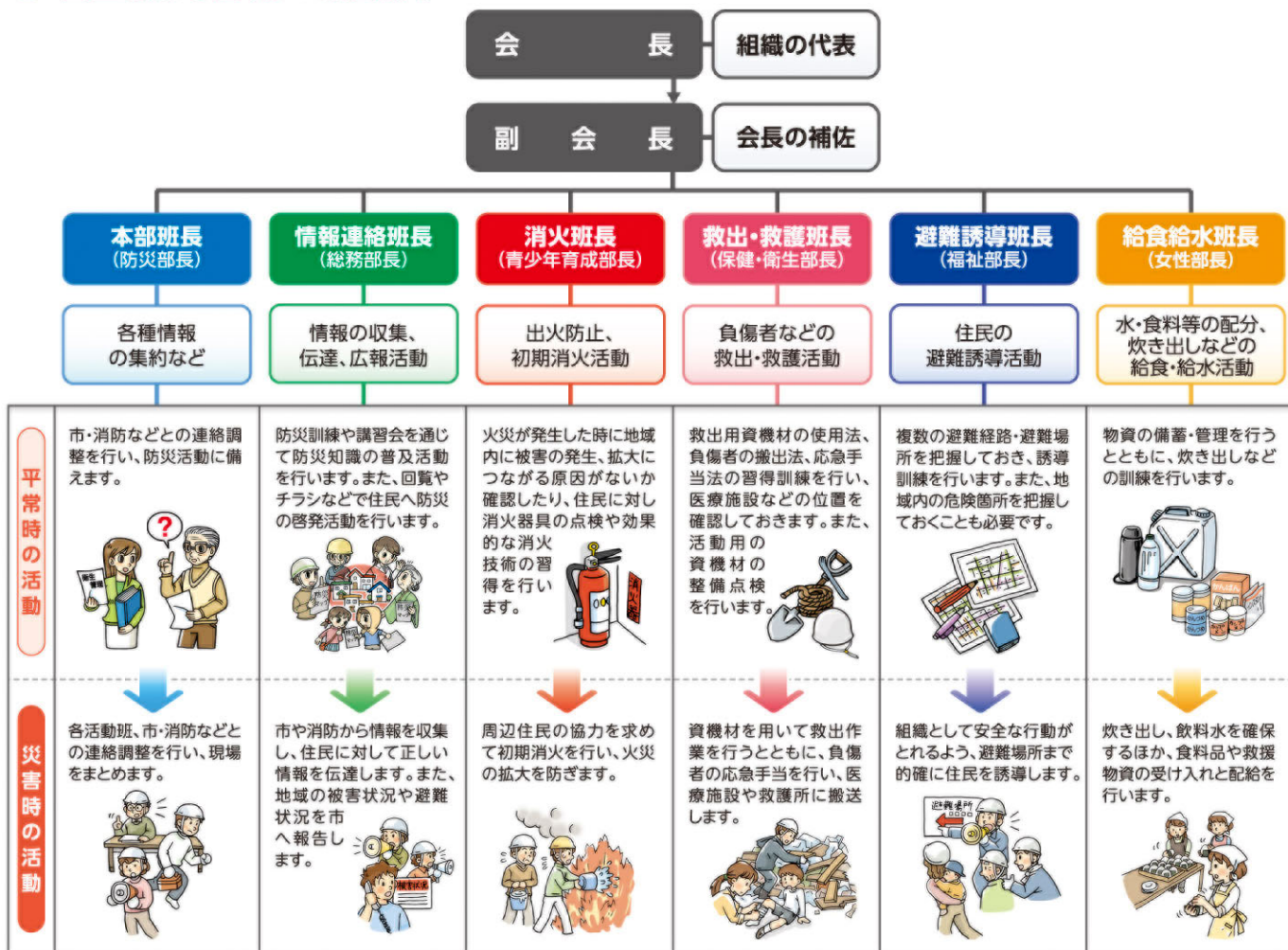
しかし、地震や津波の場合は突然襲ってくる災害です。市や防災関係機関では、ただちに被害状況の把握や応急対策に着手する体制をとっていますが、甚大な被害が市内各所で発生した場合、十分に行き届かないことが考えられます。

もしも、このような状況で危機が迫ってきたら、自らの手で災害対応や救出救護などを行い、被害を最小限に食い止めなければなりません。

そしてこの活動は、個人や家族の力だけでは限界があり、危険や困難を伴う場合があります。このような場合は、隣近所の方々や町会の方々が集まって互いに協力しあうことで大きな力となり、有効的なものになります。

自主防災組織とは、災害時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に、「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを理念とし、安心できるまちをつくるために、住民みなさんが協力しあって防災活動に取り組むための組織なのです。みんなで話し合い、できることから始めましょう。自主防災組織は地理条件、生活環境などを考慮した地域の取り組みが大切です。

▶ 自主防災組織の活動例



自主防災組織の設立や具体的なことは、市役所の「総務部総務課防災担当」にご相談下さい。

消火器の使い方を確認しよう。

- 1 安全ピンに指をかけて上に引き抜きます。
- 2 ホースを外して火元に向けます(できるだけ先端をもつ)。
- 3 レバーを強く握ると消火剤が噴射されるので、煙や炎ではなく、火元に吹き付けます。



消火のあとも熱が残っていると再発火する恐れがあるので注意しましょう。



消火器の設置は日の当たる場所や湿気の多い所を避けます。

災害時要援護者について

高齢者・障がい者・傷病者・妊産婦・乳幼児・児童など、災害時に的確な行動をとりにくい方を「災害時要援護者」といいます。このような方々を災害から守るために、みなさんと協力しあいましょう。

災害時要援護者に安心と安全を

高齢者・寝たきりの方のために

日頃の備え

- 室内はできるだけ広くして、家具、棚の上に重い物、角のある物を置かない。

災害時には...

- あわてて外へ飛び出さない。
- 本震がおさまっても余震に備えて、家の中の安全な場所に移動する。



介助のポイント

- 緊急の時はおぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。
- 不安を取り除くように声をかける。

耳が不自由な方のために

日頃の備え

- 日常から筆記用具を携帯しておく。

災害時には...

- メモなどで、正確な情報を周囲の人に聞く。



介助のポイント

- 話をする時は口の開け方をハッキリとし、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

目が不自由な方のために

日頃の備え

- 白杖は必ず手の届く所に置いておく。
- 家具等の配置の変更は本人に必ず伝える。

災害時には...

- 災害発生時には笛などを吹き、居場所を知らせる。
- 周りの人に安全な場所までの誘導を依頼する。



介助のポイント

- 災害時には声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は杖を持った方の手には触れず、肘の辺りを軽く持ってもらい半歩前ゆっくり歩く。
- 方向や目の前の位置などは、時計の文字盤の位置を想定して伝える。

肢体が不自由な方のために

日頃の備え

- 室内の安全スペースの確保と、家具等の転倒防止策を十分に取る。

災害時には...

- 無理な行動をとることを避けながらも、頭部を座布団や手で守る。
- 車イスは安全な場所に止め、介助者の協力を求める。



介助のポイント

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、おぶり紐などを利用し、おぶって避難する。

AED(自動体外式除細動器)による救命処置について

AED「自動体外式除細動器」は、突然の心停止から、けいれんした心臓に電気ショックを与え、正常な状態に戻すための機械です。付属の電極パッドを傷病者に張ると自動的に心電図を解析し除細動が必要な場合のみ電気ショックを加える仕組みで、安全・確実に除細動が行えます。



心肺蘇生法を行いながら、AEDを装着し、音声ガイダンスに従って除細動することが大切です。

- 未就学児・乳児には小児用電極パッド(小児モード)を使用する。
- 小児用がない場合は成人用パッドを使用する。
※未就学児・小学校に入るまでの小児

※日頃からAED設置場所を確認しておきましょう。

・ 災害への備え ②

もしも…の災害が起こった時、重要なのはすば
大切な人や家族、そして自分を守るために、災

災害情報について

災害が発生したり、そのおそれがある場合に、気象情報、災害情報、避難勧告、避難指示が出されることがあります。防災行政無線、広報車、メール配信などで周知するとともに、テレビ・ラジオでも放送されることがありますので、十分に注意してください。

また、危険を感じた場合などは、避難勧告などが出る前でも自主的に避難してください。

！避難勧告などに従いましょう

生命・身体・財産を災害から守るために、避難を勧めるものです。
中でも、子どもや高齢者など避難するのに時間がかかる方は早めの避難が必要です。

危険度 小

災害危険度

危険度 大

避難準備(要援護者避難)

避難行動に時間を要する者が避難行動を開始しなければならない。人的被害の発生する可能性が高まった状況。

避難勧告

通常の避難行動ができる者が避難行動を開始しなければならない。人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況。

避難指示

前兆現象の発生や、現在の切迫した状況から、人的被害の発生する危険性が非常に高いと判断された状況。

▶ 防災・気象情報はここから

メール	防災情報	函館市ANSINメール	https://mlmag.city.hakodate.hokkaido.jp/m/ansin	携帯版 
		※電子メールによる配信を希望される方は、 hkd-ansin@kmel.jp に空メールを送信して登録して下さい。		
		緊急速報メール	NTT docomo au SoftBank	
ホームページ	気象情報	気象庁	http://www.jma.go.jp/jma/	
		函館海洋气象台	http://www.jma-net.go.jp/hakodate/	
	河川情報	国土交通省「川の防災情報」	http://www.river.go.jp/	携帯版 http://i.river.go.jp/ 
	防災情報	北海道防災情報	http://www.bousai-hokkaido.jp/	携帯版 http://i.bousai-hokkaido.jp/ 
函館市		http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/soumu/bousai/		

災害用伝言サービス

安否情報などを家族や知人に知らせる方法を家族で確認しておきましょう

災害用伝言ダイヤル 171

大規模な災害が発生し、安否確認等の電話によって電話回線が混雑し、電話が繋がりにくい状況でも、伝言の録音・再生により、被災地内の家族や親戚・知人等と連絡を可能にするNTTボイスメールサービスです。

録音 171 → 1 → 0138 → □□□□□□ → 伝言の録音

※詳しい内容はNTTのホームページで確認して下さい。

再生 171 → 2 → 0138 → □□□□□□ → 伝言の再生

ホームページ

<http://www.ntt-east.co.jp/saigai/>

案内放送が流れます 市外局番(函館市) 被災地の方の電話番号

携帯電話災害用伝言板サービス

大規模な災害が発生した場合、携帯電話各社のトップに「災害用伝言板」が追加され、自らの安否状態を登録することが可能になり、登録された伝言は、インターネットや携帯電話などから確認することができます。

※使用にあたっては、各携帯電話会社のホームページで確認しておきましょう。

正しい避難と正しい情報です。
 害情報の流れを知り、もしもの災害に備えましょう。



北海道防災情報システム

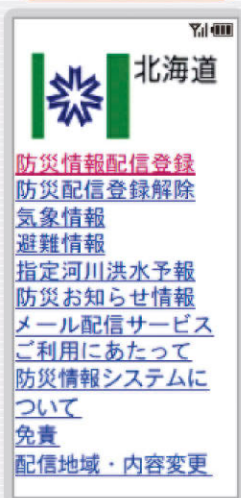
北海道 北海道から道民の皆様へ災害に関連する情報を積極的に提供します。
 お持ちの携帯電話へ災害関連情報をメール配信します。

登録はこちらから!
<http://i.bousai-hokkaido.jp/>

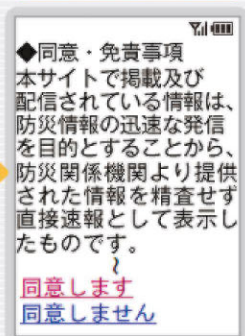


登録方法 ※登録は携帯電話から右上の《携帯電話URL》へアクセスしてください。

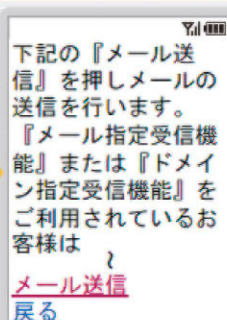
配信登録を選択



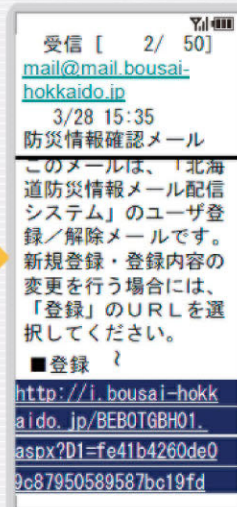
同意・免責事項確認



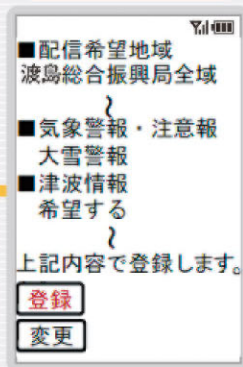
空メールアドレスを送信



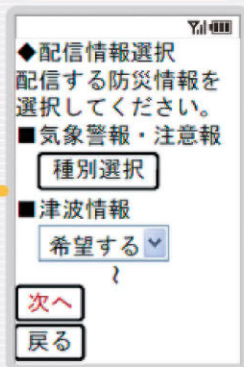
受信メール(URL添付)



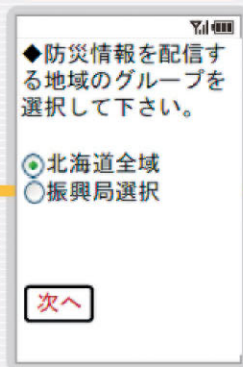
登録内容確認



詳細設定



配信希望地域選択



添付URLからアクセス

登録完了!

メール配信される情報 ※地域・情報を選択することができます。(メール配信は携帯電話だけのサービスです)

気象警報

暴風雪警報・大雨警報・洪水警報・暴風警報・大雪警報・波浪警報・高潮警報

気象注意報

大雨注意報・洪水注意報・強風注意報・風雪注意報・大雪注意報・波浪注意報・高潮注意報・雷注意報・融雪注意報・濃霧注意報・乾燥注意報・なだれ注意報・低温注意報・霜注意報・着水注意報・着雪注意報

火山情報(警報・予報)

平常・火口周辺規制・入山規制・避難準備・避難

地震情報

震度1以上～震度7

避難情報

避難準備・避難勧告・避難指示

※ 津波情報 土砂災害警報情報 竜巻注意情報 指定河川洪水予報 河川情報 記録的短時間大雨情報 など

※配信希望による

わが家の防災メモ

いざという時に備えて、
書き込んでおきましょう。

！わが家の避難所 ～地震や津波の発生した時の避難する場所を、家族みんなで決めておきましょう。

地震が発生した時の避難場所	津波が発生した時の避難場所	家族が離ればなれになった時の集合場所
		

！家族・親族・知人の連絡先 ○メモ(証明書の番号など)

氏名	電話番号	住所	備考

！緊急時連絡先一覧

市外局番(0138)

函館市役所(総務部)	東雲町4-13	☎ 21-3648 (夜間・休日21-3006)	函館中央警察署	五稜郭町15-5	☎ 54-0110
戸井支所	館町3-1	☎ 82-2111	函館西警察署	海岸町11-27	☎ 42-0110
恵山支所	日ノ浜町127	☎ 85-2331	函館海上保安部	海岸町24-4	☎ 42-4313
楫法華支所	新浜町156-1	☎ 86-2111	北海道電力(株)函館支店	千歳町25-15	☎ 22-4112
南茅部支所	川汲町1520	☎ 25-5111	北海道ガス(株)函館支店	万代町8-1	☎ 41-3175
函館市消防本部	東雲町5-9	☎ 22-2146	函館市企業局	末広町5-14	☎ 27-8711
かかりつけの病院など		☎	かかりつけの病院など		☎

避難伝言板カード

世帯主名

他名

避難しました!!



避難先

(住所:)

避難先電話番号
(又は携帯電話番号)

※本カードは、災害時に自主的に避難をしようとする場合に切り取り、玄関等の見やすい場所に表示しておいて下さい。記入の際は消えにくい油性マジックなどを使用して下さい。